

<福島県知事賞>

## これから大切なこと

平田村立ひらた清風中学校

3年 原谷 朋花

「えっ。こんなに多くなっているの。」

私は、人口の減少について調べていました。すると、人口減少・少子高齢化と税のグラフが出てきました。見てみると、1970年から2010年にかけて、少子高齢化が進むにつれ、若い人達が払う税が多くなっていることに気がつきました。

高齢者に支払われる年金、それはどこから来ているか知っていますか。それは、皆が払っている税から来ているのです。医療費なども税によって支払われています。私はこのことを知ったとき、なんて考えられたものなのだろうか、と感動しました。しかし、考えてみましょう。少子高齢化が進み、働ける人が少なくなっていく中、税はどんどん増え続けていきます。そうなってしまった場合、私達、そして、これからの子ども達は、その負担にたえられるのでしょうか。

今の子ども達は、税の使いみちなどに関心をあまり持っていないのだと思います。しかし、社会を支えてくれている大きな柱だと私は思っています。これから、税をどのようにしていくかは、私達、一人一人が税の使いみちを考え、そしてどのくらいの負担があるのかをよく、自分で考えていくことが大切だと思います。

税とは、人々の助け合いの心から生まれたものだと私は思います。税を払うということは、困っている人々を助けることと同じことなのではないでしょう

か。だからこそ、税を負担する側として、税がどのようなところでどのように使われているのかを知り、理解することによって、税を負担するという心構えも変わり、税は支払わなければいけないという『義務』から、自分で支払うんだという、『自主的』なものに変わっていくのではないのでしょうか。

私の祖母は、病気をして1か月程入院をしていました。税金を払っていたため、最低限の費用の負担で、退院することができました。このように、皆さんが払っている税金で、私の祖母は助けられたのです。もし税金がない世界だったら、祖母は大きな負担を強いられていたかもしれません。

私は、きっと人々は税について知らないことが多いと思います。人々はもっと税について知ることが大切だと思います。それを知ることによって、人々は、税を払って社会を支えているという実感が持てるのではないのでしょうか。

これからの人々は、税の負担が大きいかもしれません。これからは、税をどのようにしていくかも、考えていく必要があると思います。